



極限の表現に楽器がついてきてくれる

# グリーンホー

—— GC4-1R & 神田めぐみ (ミルウォーキー交響楽団) 首席トロンボーン奏者

高校を卒業後アメリカに渡って音楽を勉強し、現在は五大湖のほとりにあるウィスコンシン州、ミルウォーキー交響楽団の首席を務める神田めぐみさんに、オンラインのインタビューを行なった。

## 10年くらい一緒に吹いていたグリーンホーさんが作った楽器

桐朋女子高等学校音楽科を卒業してそのままアメリカに渡られたんですね。

神田 高校にはアメリカのカリテイス音楽院やドイツのカラヤンアカデミーで学ぶ人々が来日し、演奏を聴かせてくれたので、それを見て「私もこういうところで勉強したい」と思ったのです。当時クリーブランド管弦楽団の首席だったジェームス・デサーノ先生が来日されたときに呼ばれて何曲か吹くことになったのですが、どうやらそれが試験だったみたいで、クリーブランド音楽院の入学が決まりました(笑)。

卒業後はアメリカのいくつかのオーケストラを経て、2002年から現在のミルウォーキー交響楽団で首席奏者を務めています。神田さん

んの目から見てどんなオーケストラですか。

神田 私好みのオーケストラです(笑)。危ういくらいのピアニッシモとか、まったく色の違うフォルテなど、カラフルでテイストフル。ときには野獣のようにもなれます。

—— 神田さんがお使いのグリーンホーという楽器ですが……。

神田 長年、ミルウォーキー交響楽団で2番を吹いていたグリーンホーさんが作った楽器です。今は引退してしまいましたが、10年くらい一緒に吹いていました。私がミルウォーキーのオーケストラに入ったときにはすでに楽器作りを始めていて、「グリーンホーバルブ」というすぐく抜けのよいロータリーバルブを開発し、その後、ベルも作るようになって、すばらしい楽器が完成しました。私はGC4-1Rを初めて吹いたときに「もう返さない」と言っていて、以来すつ

と使い続けていますよ(笑)。グリーンホーのベルは指で弾くとカーンと鳴るくらい薄くてよく響くので、それも、オープンでフリーに吹ける印象につながっていると思います。

自分の求める極限の表現をしようとしたときに、ついてきてくれる楽器と、楽器の側でリミットがかかっ

てしまいうようなものがありますが、グリーンホーは極限までついてきてくれる楽器です。聴いたことがないくらいソフ

トな音も出せるし、自分がちよつと色を変えたいと思ったときには、そのまま鏡のように映し出してくれます。倍音がたくさん聴こえるカラフルな音が出るのも、薄いベルのおかげだと思

います。入ったものを正直に出す楽器で、感覚としてはそこに楽器がないような感じ。私は楽器

に入ったものを正直に出す楽器で、感覚としてはそこに楽器がないような感じ。私は楽器

## 神田めぐみ(かんだ・めぐみ)

10歳のとき小学校のプラスバンド部に入部。13歳よりトロンボーンを三輪純生に師事。桐朋女子高等学校音楽科を首席で卒業し、米国に留学。クリーブランド音楽院にてジェームス・デサーノに師事。アルバーニ交響楽団、ロチェスター・フィルハーモニー管弦楽団を経て2002年、ミルウォーキー交響楽団首席奏者に就任。

## グリーンホー GC4-1R

¥1,133,000

神田さんの愛用するグリーンホーGC4-1Rは、カタログに「エルクハートスタイル」とあるようにオールドーンをイメージして作られた楽器で、比較的タイトに吹けるところが神田さんは気に入っているようだ。2枚取りベルを採用し、オプションとしてナロスライドも用意されている。



## グリーンホー GB4-1Y

¥1,100,000

一方「ニューヨークスタイル」とうたわれるGB4-1Yは往年のバックをイメージして作られているという。どちらかと言えばバワフルでワイドに吹ける楽器で、1枚取りのベルが特徴である。



—— 読者にひとことお願いします。

神田 正確に吹くことも大事ですが、一番大切なのは音楽を通して自分のメッセージをきちんと伝えることだと思います。今年の9月には広島、名古屋、東京とソロでの日本ツアーを行ないますので、ぜひ聴きに来てください。

にじまされたくないから、グリーンホーの楽器が大好きなんです。

※価格はすべて税込で、2024年1月時点のものととなります。

